

仕様書

ロボット・AI部

1. 件名

戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第2期／ビッグデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術／データ連携基盤を活用したスマートシティ構想を実現するためのアーキテクチャ等の調査・検討

2. 目的

Society5.0を具現化するためにはサイバー空間とフィジカル空間とが相互に連携したシステム作りが不可欠であり、未だ様々な開発要素・課題がある。特に、システム全体が複雑化し、技術の進化が速い中でイノベーションを創出していくためには、システム間の相互接続性やシステムの拡張性等が確保されることが重要となる。

「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第2期／ビッグデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術」のサブテーマの一つである「分野間データ連携基盤技術」（以下「本サブテーマ」という。）では、国、地方公共団体、民間などで散在するデータ基盤を連携させ、分野・組織を越えたデータ活用とサービス提供を可能とする分散型分野間データ連携の実現を目指している。また、2019年度に、システム間の相互接続性等の確保を目指して「アーキテクチャ構築」に係るテーマを実施し、スマートシティ・リファレンスアーキテクチャ（以下「SCRA」という。）やその活用に係るガイドブック等を作成した。さらに、内閣府では2021年度にその続編となるスマートシティ・ガイドブックを作成している。

各自治体では、SCRA等の参照を通じてスマートシティ化に取り組んでいるが、現在のところあくまで一都市のスマート化を推進しているケースが大半で、分野間・地域間の連携にまで至っていることは少なく、また、本サブテーマで開発している分野間データ連携基盤技術の活用の検討も十分に進んでいない。

本調査では、過去のスマートシティ関連調査の情報整理や有識者へのヒアリング等を通じて、データ連携基盤を活用したスマートシティ構想を実現するために必要となる条件、現状の課題等について整理を行う。また、分野間・地域間連携を志向してSCRAや関連するガイドブックを更新し、その効果的な情報発信を行う。

3. 内容

以下の各業務について、適宜NEDOと相談の上で実施すること。

（1）スマートシティの標準化領域に関する調査

過去3年程度の各省庁等で実施されたスマートシティ関連の調査報告について、体系

的に情報整理を行うこと。特にスマートシティ関連の標準化動向については、標準活用や海外展開に関わる有識者・関係者に対するヒアリング等を踏まえ、国際標準規格に関する状況を詳細に整理すること。

上記の調査を踏まえ、データ連携基盤を活用した分野間・地域間連携を実現するスマートシティ構想のために、技術で解決すべき領域、標準化を推進すべき領域を特定すること。

（２）SCRA等の更新案の策定

NEDOから提供される関連資料（「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第2期／ビッグデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術／スマートシティの分野間・地域間連携等に関する調査」において収集した情報等）を参照するほか、国内外のスマートシティに係るアーキテクチャ等を調査し、データ連携基盤を活用したスマートシティ構想を実現するために必要となる条件、現状の課題、課題を解決するための施策案について整理を行うこと。その際に、特に以下の点に留意すること。

- ・街のタイプ（都心、郊外、ベッドタウン、観光地等）に応じた整理をすること
- ・SCRA等の活用ターゲットとして、データ基盤が充実していない自治体やエリアマネジメントを行っている民間団体を含めること
- ・スマートシティの海外展開（街全体だけでなく部分的な展開含む）の観点も記載すること
- ・長期間スマートシティの運用を継続するために重要なことを整理して、持続性に係る内容を充実化すること

上記及び（１）の成果を踏まえ、データ連携基盤を活用したスマートシティ構想を実現するためのSCRA、SCRAガイドブック、スマートシティ・ガイドブックの更新案を策定すること。

（３）「スマートシティ分野アーキテクチャ等検討会議」の設置・運営

内閣府に設置された「スマートシティ・ガイドブック検討会」の委員を主体とした有識者から構成される「スマートシティ分野アーキテクチャ等検討会議」を設置し、3回程度開催すること。なお、業務内容には、資料の整理、関係者への連絡、委員謝金・交通費支払い等の事務局業務を含むものとする。

本検討会議において、（２）で策定したSCRA、SCRAガイドブック、スマートシティ・ガイドブックの更新案について報告し、議論等を踏まえて更新版を制定すること。なお、制定に先立って自治体等の主な活用ターゲットからの意見も反映しておくこと。

(4) SCRA等の英語版の作成

(3) で制定したSCRA、SCRAガイドブック、スマートシティ・ガイドブックの更新版について、英語版を作成すること。なお、英訳等は自動翻訳に依るのではなく、ネイティブチェックを入れる等、英語圏の読者が違和感なく読めるよう水準向上に努めること。

(5) スマートシティに係る人材等の調査

スマートシティの自律的な実装をリードしうる人材や団体の取組等について調査すること。調査対象として、(3) (4) の成果物 (SCRA、SCRAガイドブック、スマートシティ・ガイドブック) や本サブテーマで開発しているデータ連携基盤を活用すること等により、分野間・地域間連携を検討している人材や団体を中心とすること。

また、国内外のスマートシティに係る有識者について、その専門分野、関係性等が整理・図示された資料 (人材マップ) を作成し、スマートシティ関連人材の活動・ネットワーク拠点のあり方や育成策に関する提言をすること。

(6) シンポジウムの開催

SCRA等の活用先として期待できる国内外の主体に対して、効果的に周知し活用を促進するために、本調査の成果報告を主体としたシンポジウムを開催すること。業務内容には、当日の運営、アンケート作成・集約、講演者の謝金、アーカイブ用動画の作成 (編集含む) 等の事務局業務を含むものとする。

なお、開催形式はオンライン参加併用のハイブリッド開催を基本とし、第4四半期に1回の開催とする。

(7) 進捗報告会の実施

上記に係る進捗報告を、内閣府、NEDO等に対して月1回程度実施すること。

4. 調査期間

NEDO が指定する日から 2023 年 3 月 31 日まで

5. 報告書

提出期限 : 2023年3月31日

提出方法 : NEDO プロジェクトマネジメントシステムによる提出

記載内容 : 「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って、作成の上、提出のこと。

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

6. 報告会等の開催

委託期間中または委託期間終了後に、成果報告会における報告を依頼することがある。

以上